

ミスター・Kの英語教育ワンポイント指導ヒント

千葉県旭市教育委員会外国語教育アドバイザー
千葉大学 教育学部 学校教員養成課程
東京女子大学 現代教養学部 国際英語科 非常勤講師
加瀬 政美

【第10号】 中学校向けバージョン

- 1 現学習指導要領から、中学校に「仮定法」の文法事項が導入されました。現状、「仮定法」と「条件節」の違いがしっくりこない子が多く、指導に悩んでいるという声をよく聞きます。そこで、「仮定法はこう教える！」をまとめてみました。

仮定法

「～だったら～なのになあ」という気持ちを表します。
ちょっと人間的で大人の表現です。

まず定義：①現実でないことを仮定する。②裏がある。

※現実にあるなあ！のときは、仮定法は使いません！

例) 「もし明日晴れたら」と言いたい場合は、現実には起こりうるもので、これが仮定法ではなく、「条件」を表す言い回しになります。

※現実でないことを仮定すると現実はどうですよ！という裏が出てきます。

例) 1 「私はお金持ちならば、その車を買うことができるのに。」と言いたいとき、「現実にはお金持ちではない！」という裏があるということです。

このように、仮定法を授業で教えるときは、まず日本語でイメージを徹底的に理解させることが、習得への早道です。(ここは、英語のみで、理解させようと試みても、生徒の理解が追いついてこないのです。



次に、指導者として意識したいこと！

仮定法には2つある！(中学生では、下の(1)しか習わないが、(2)も指導者は使えるようになっておきたいです。

(1) 仮定法過去(現在を表す)

If + S + 過去形 (were) , S + would (could, should, might) ~

(2) 仮定法過去完了(過去を表す)

If + S + had 過去分詞 (P.P) , S + would (could, should, might) + have + P.P

※仮定法では、時制が一つずつ過去に向かってずれていきます。

つまり、現在のことを表すのに、過去形を使い、過去のことを表すのに、過去のもう一つ向こうの時制である過去完了形(大過去)を使います。

中学校では、(1) だけですが、指導者は(1) (2) が、自分のイメージを表現した

いときにスムーズに使いわけができるようにしておきましょう！理解はしていると思いますが、わかっていることと使いこなせるようになるとは全く別ものです。

例) 1 を英語で表現してみましょう。

「私はお金持ちならば、その車を買うことができるのに。」

(裏：お金持ちじゃないから、その車を買うことができない)

言いたいことは今の状態、理想は、そんなことはあり得ない状態なので過去を使って仮定しているんです。(仮定法過去)

If I were rich, I could buy the car.

では、「私はお金持ちだったならば、その車を買うことができたのに。」

(裏：お金持ちじゃなかったから、その車を買うことができなかった)

言いたいことは過去の状態、理想は、そんなことはあり得なかった状態なので過去の一つ向こうの大過去、つまり仮定法過去完了です。

If I had been rich, I could have bought the car.



☑ もしもピアノが弾けたなら、思いのすべてを歌にして、君に伝えることだろう☑

西田敏行さんの名曲ですよ。これを聞きながら、「これ、仮定法過去じゃん、ピアノが弾けないから、思いのすべてを歌にしてあなたに伝えられないんだよね！」(裏というやつですね)。

※日本語では、「弾けた」ですが、「ピアノが弾けるなら」と今のことですよ。日本語って難しいですね。だから、こんなイメージ作りが大事な

んです。言葉だけでわかろうとしてはいけません。また、使いもしない例文を子供に押しつけて、わからせようとしても効果はありません。今号は、仮定法の文法説明ではありません。大事なことは、英文から導入するのではなく、日本文、そしてイメージ、それを英文と導入していく方が、仮定法の指導は理解を促進しやすいです。

ちなみに、

If I could play the piano, I would put all my feelings into a song and convey them to you.

こんな感じですかね。私は、いつも「あれ、これ英語で言ったらどうなるんだ、そして実際、英語にしてみても、使う前にALT (native) に確認して、その文を場面であえて使って楽しんでます。こんな姿勢は、英語の指導者は常に必要なことと思っています。